



認定特定非営利活動法人

日本がん登録協議会

JACR Japanese Association of Cancer Registries

NEWSLETTER

年2回
発行

JACR ニュースレター

February.2022 No.52

認定NPO法人になりました!

2005年
保健文化賞
受賞

2016年
朝日がん大賞
受賞

朝日がん大賞 受賞記念



天野 慎介

一般社団法人 グループ・ネクサス・ジャパン 理事長 / 一般社団法人 全国がん患者団体連合会 理事長

公益財団法人日本対がん協会では、対がん活動に顕著な功績のあった個人及び団体を顕彰し、がん征圧運動の一層の高揚を図ることを目的として「対がん協会賞」を設けています。2021年度は国内のがん登録事業の基盤を作った功績から、猿木信裕先生も受賞されています。「朝日がん大賞」はこの日本対がん協会賞の特別賞として、「がん征圧に向けて優れた実績をあげて社会に貢献し、かつ、第一線で活躍している個人・団体を顕彰」することを目的として設けられていますが、このこのたびは私がこの荣誉ある賞をいただきましたこと、改めて皆さまに感謝申し上げます。

私は2000年に27歳で血液がんである悪性リンパ腫を発症しました。当時は分子標的薬や抗体療法薬などもまだ無く、5年生存率も現在のように高くはありませんでした。同世代のがん患者と繋がるすべもなく、大変孤独を感じながら闘病生活を送った記憶があります。「自身が経験した辛さや孤独を後に続く患者さんたちに経験して欲しくない」その思いががん患者支援活動に関わるきっかけでした。

2006年のがん対策基本法が成立し、厚生労働省がん対策推進協議会の委員には「がん患者及びその家族または遺族を代表する者」を含むことが明記されました。私も2009年から2期4年、協議会の委員と会長代理を務めました。委員就任の際、私を紹介する新聞記事を読んだ記者さんから「記事読みましたよ」と言われ「お恥ずかしいです。恐縮です」

と言ったところ、「何か勘違いしていませんか?」と言われました。「あなたが記事になったのは、あなたが優れているからじゃない。たくさんの患者さんが命をかけて声を上げ続けたがん対策基本法があり、その場にあなたがたまたまいるだけでしょ。恐縮ですなんて言っているひまがあったら、あなたはもっとこの記事を使って、患者の声とがん対策を訴えるのがあなたの仕事でしょう」この記者さんもがん経験者であったとは、後で知りました。このとき以来、声を上げたくても上げることが出来ないがん患者さんたちの声を届けることが使命だと、心に誓って活動してきました。

がん登録法が国会で検討されていた際に、個人情報保護の観点からその成立に反対する議員の方々がいて、成立が危ぶまれていたときに、小児がん経験者の方が「自身が経験した辛さを後に続く患者さんたちに経験して欲しくない。そのために、自分たちのデータを使って欲しい」と発言したことが、成立に向けて進むきっかけとなりました。「後に続く患者さんたちに同じ辛さを経験して欲しくない」との思いはがん患者の思いでもあり、また声なきがん患者の皆さんのデータを集め、まとめて、発信していくがん登録に関わる方々にも、共通の願いではないかと思います。「同じ辛さを経験させない」ために、これからもがん登録に関わる方々とともに、活動を進めてまいりたいと思います。皆さまのご指導ご鞭撻を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。



「モモコさんと紫本」のLINEスタンプ販売中!

全
40
種類

120円

LINEスタンプの収益は日本がん登録協議会の
非営利事業の寄付金として使用させていただきます。



購入はこちら